

(仮訳)

プレス・リリース

2022年9月15日

バーゼル銀行監督委員会は、バーゼルⅢ改革の評価と気候関連金融リスクへの対応に関する作業を前進させ、G-SIBの年次評価を承認

- バーゼル銀行監督委員会(以下「バーゼル委」)は、バーゼル枠組みにおけるバッファ使用可能性とシクリカリティに関する評価報告書の公表に合意。
- 気候関連金融リスクに対処するための措置に関する進行中の作業を議論。
- グローバルなシステム上重要な銀行(G-SIBs)に対する年次選定結果を承認。

バーゼル委は、7月15日にバーチャルで、また、9月14日-15日には対面で会合を開催し、グローバルな銀行システムに対するリスクと、関連する脆弱性の状況を把握し、各種の政策・監督上の取組みについて議論した。

グローバルな銀行システムに対するリスクと脆弱性

バーゼル委は、インフレの再燃や成長見通しの悪化など、経済・金融市場の動向がグローバルな銀行システムに及ぼす影響について議論した。議論は、インフレ関連リスクと金利の急上昇がグローバルな銀行システムにどのような影響を与えるかについてのバーゼル委の最近の評価に基づいたものであった。

バーゼルⅢの規制改革もあって、銀行はこれまでのところ概ね強靱性を維持している。金利上昇による仲介収益の下支えが予想される一方、高インフレの継続や景気下振れリスクは、銀行の強靱性を試すことになり得る。グローバルな銀行システムの強靱性を確保するため、銀行、そして監督当局は、変化する見通しに警戒を続けるべきである。

また、バーゼル委は、銀行システムに影響を及ぼす中期的な構造変化や脆弱性についても議論した。これには、過去10年間で著しく成長してきたノンバンク金融仲介(以下「NBFI」)と銀行との相互関連性が含まれる。バーゼル委による最近のテーマ別評価では、銀行がNBFIから影響を受ける広範な直接・間接的な経路が強調された。最近のNBFIの経営難をめぐる出来事は、銀行システムへの潜在的なリスクの波及を浮き彫りにした。バーゼル委は、NBFIの動向を引き続きモ

ニタリングし、監督上の含意を評価することに合意した。バーゼル委は、暗号資産市場の動向についても議論し、健全性の枠組みの最終化に関して中央銀行総裁・銀行監督当局長官グループが示した最近の[方向性](#)を確認した。

バーゼル委は、銀行による人工知能(AI)及び機械学習(ML)の利用が監督に及ぼす影響について意見交換を行った。バーゼル委は、AI/MLがもたらす、銀行がモデルのアウトプットを理解・説明しようとする際に直面する課題、銀行のガバナンスや説明責任に関する取決め、及びサードパーティ AI/ML アプリケーションの利用に関する課題について議論した。バーゼル委は、こうした進展を引き続き評価し、監督上のベストプラクティスを共有することに合意した。

バーゼルⅢ規制改革の評価と実施

バーゼル委は、昨年、新型コロナウイルス感染症のパンデミックから得られた初期の教訓に関する中間評価報告書を[公表](#)したことを受けて、バーゼルの枠組みにおけるバッファの使用可能性とシクリカリティに関する追加的な実証分析について議論し、11月のG20首脳会合までに第2次評価報告書を公表することに合意した。

バーゼル委はまた、過去10年間のバーゼルⅢ基準の実施の影響の包括的な評価、特に銀行の強靭性とシステムック・リスクに対する影響についても議論した。バーゼル委はこの第3次評価報告書を本年末頃に公表する予定である。

バーゼル委は、整合性評価プログラムの一環として、日本における安定調達比率(NSFR)及び大口エクスポージャーの枠組みの実施状況に関する評価報告書を審査し、承認した。整合性審査の報告書は近々公表される。

気候関連金融リスク

バーゼル委は現在、グローバルな銀行システムに対する気候関連金融リスクに対処するため、一連の潜在的な措置(開示、監督上および/または規制上の措置を含む)を評価・策定中である。

本年初めに気候関連金融リスクの効果的な管理と監督のための一連の諸原則が[公表](#)されたことを受けて、バーゼル委は、気候関連金融リスクに対処するための考え得るアプローチに関するバーゼル委の進行中の作業について議論した。

グローバルなシステム上重要な銀行

バーゼル委は、G-SIBs に関する年次選定の結果を承認した。この結果は金融安定理事会 (FSB) に提出され、後日、FSB は 2022 年の G-SIBs リストを公表する。